



## 松田 昌さん

[作曲家、鍵盤ハーモニカ・エレクトーン奏者]

「全ての始まりは好奇心」と語る作曲家の松田昌さんは、エレクトーン奏者でもあり、ここ15年は鍵盤ハーモニカに没頭し、奏法の可能性の追求と作品制作の両面から鍵盤ハーモニカの世界を牽引していらっしゃいます。全国300校に及ぶ学校公演の経験から、音楽のもつ魅力などについて熱く語っていただきました。

### 「ベートーヴェンになりたい!!」

#### 『運命』が決めた、音楽への道

音楽が面白いと思った最初の経験は、大阪教育大学附属池田小学校3年生のときに吹いたリコーダー。学校の音楽の時間以外、音楽の教育は受けていなかったけど、知っているメロディーを指で探り、吹けるように工夫するのがとても面白かった。そして、学芸会のようにリコーダーをソロ演奏した気持ちよさも今でも覚えていますね。

中学2年生のとき、ベートーヴェンの「運命」を聴いて大感激! 「ベートーヴェンになるぞ!」と決めちゃいました(笑)。そして中学の音楽の松村先生に相談すると「まずはピアノを弾けるようになりましょう!」とアドバイスを受け、中学2年生の3学期からピアノを始めたから、とても遅いですね?

でも、その伸び盛りの中学生の音楽に対する情熱は凄くて、学校の図書館から作曲法の本を借りて、読んで読んで研究して、ピアノを習い始めた半年後の中学3年生の夏休みに、まったくの独学で3楽章のピアノソナタを作曲して、秋の文化祭で全校生徒の前で発表したのですよ! 高校になってからは作曲の先生に習って、大学は東京芸術大学の作曲科に入りました。

後日、僕がエレクトーンプレーヤーとして成功した後、松村先生は附属中学の校長をなさっていて、学校コンサートに僕を呼んでくださったの。演奏が終わると、全校生徒の前で熱いハグ

をしてくださって、大感激! 幸せな思い出です!

#### 先生ご自身が楽しんでいる姿こそが子どもの好奇心を刺激する妙薬かも?

昨年度まで10年の間に、全国300校以上の小学校で演奏させていただきました。コンサートのタイトルは“夢を追いかけて!”。「マサさんは、世界一の鍵盤ハーモニカの奏者になりたい! という夢をもって、毎日練習し、いろんな工夫をしています。みなさんはどんな夢をもっていますか?」と問いかけ、夢と工夫について考えよう! というメッセージを込めました。

最後の「世界に一つだけの花」を合唱しているとき、一番前の女の子が泣いている。「どうしたの?」と聞くと「この楽しい時間がもうすぐ終わると思うと、悲しいの!」と。ミュージシャン冥利に尽きますね?

高学年の反応は、様々ですね。学校によっては最後にはスクラムを組んで元気に歌ってくれるところがあるかと思うと、ずっとうつむいていてクラ〜い印象を受ける学校もあります。ふっと気がついた時があるのですが、先生方が子どもたちと一緒にあって、興味をもって聞いてくれている学校は、子どもたちもノリノリ。先生が興味なさそうにしている学校は子どもたちも活気がない。教員業務が重労働であることはとても理解するのですが……。

子どもたちが夢をもつきっかけは、憧れと好奇心だと思います。音楽や鍵盤

ハーモニカにも興味と好奇心をもってくださる先生のそばにいる子どもたちは、好奇心にあふれた、人生に積極的な気持ちになるのではないかとそんなことを感じます。

#### 鍵盤ハーモニカの指導について

鍵盤ハーモニカは必ずタンギング(舌で音を切る)を使うものだと思っいらっしゃる先生はとて多いですが、そうではありません。フルートやクラリネットと同じように、タンギングが必要な時とタンギングをしないほうがいい時とがあるのです。さらに、タンギングってとても難しいのです。

小学1年生にタンギングを要求するのはとても無理なんです。それよりも、もっと大切なことがあります。それは音楽する時にいちばん大切なこと、「自分の感情を音に託して表現すること」だと思います。小学校の音楽鑑賞会では、“ぶんぶんぶん”を使って、「普通の蜜蜂」「花が咲いてなくてハチミツがとれなくて悲しい蜜蜂」「お腹が空きすぎて怒っている蜜蜂」「みなさんのように可愛い蜜蜂」という風にいろんな蜜蜂を演奏すると、子どもたちは大喜びします。表現のためには、「強い音で吹いてみよう! 弱い音で吹いてみて! 悲しい気持ちで小さく吹いてみてね!」などのように、心の中にあるいろいろな表情を感じながら吹いてみようね! という指導があれば、子どもたちは大喜びで、音楽も鍵盤ハーモニカも大好きになると思います。

#### PROFILE

まつだまさ ● 1946年兵庫県出身。名古屋音楽大学・大学院客員教授。第10回インターナショナル・エレクトーン・コンクールでグランプリを受賞後、キーボード・アーティスト、作曲家として、国内外での演奏活動を中心に、映画・ミュージカルの作曲などで活躍。2006年、CD『ピアニスト MASA』をジャズピアニストの佐山雅弘とのデュオでリリースし、本格的に鍵盤ハーモニカ奏者としてデビュー。「両手奏法」など新しい奏法を世に送り出し、鍵盤ハーモニカの曲集も多数出版している。

## 好奇心は、夢を追いかけるための「魔法のランプ」です